

あなたが伝えたい・残したい、石狩の自然や歴史を教えてください。
みんなで考える「石狩遺産」募集中! (詳細は27ページへ)

不老不死のクラゲ

春から夏にかけて、石狩の海にはいろいろなクラゲがやってきます。手のひらくらいの大きさのミズクラゲやオワンクラゲは、見たことがある人も多いでしょう。でも実は、石狩の海辺ではほかにもいろいろなクラゲを見ることが出来ます。その多くは直径が1〜2cmしかないために、気づいていないだけなのです。

2016年の初夏、波打ち際で水中を観察していると、赤い粒がたくさん漂っているのに気がつきました。顔を海面に近づけてよく見ると、小さなクラゲの大群でした。ベル型の傘の直径はわずか5mm以下、体の内部は鮮やかな紅色。ベニクラゲです。世界中の海に生息しているのですが、石狩では初めて確認しました。ベニクラゲは注意しないと見逃すような小さなクラゲですが、近年、世界で注目を浴びています。その理由は「不老不死」だからです。

クラゲは一生のうち何回か、姿と生活のしかたがガラッと変わります。生まれてすぐは小さなプランクトンとして水中を漂いますが、その後、岩など硬いものに付着して「ポリプ」となります。小さなイソギンチャクのような状態です。その姿でしばらく過ごした後、いくつも分裂して水中に切り離され、パクパクと脈動しながら漂う状態になります。「クラゲ」と言っているのは、本来はこの段階のことを指しているのです。こ

のクラゲが成熟するとオスとメスとで受精・産卵し、一生を終えます。

ところがベニクラゲは、クラゲ状態からポリプ状態へと戻ることがあるのです。大人から子どもへの「若返り」です。ストレスを受けたときにそのような現象が起きるそうで、ポリプからまた成長・分裂し、再びクラゲになっていきます。この若返りは何度も繰り返すことが可能らしく、この現象を研究している京都大学では1匹のベニクラゲを10回以上若返らせることに成功しているそうです。将来的に生命の老化現象の解明につながる期待されています。

もしかしたら将来、人間も若返ることができるようになる? そんな夢を見せてくれるクラゲ、今年もまた石狩にやってくるかもしれません。石狩の海辺は未知の世界に遭遇できる、貴重な場所。石狩の自然遺産として残していきたいです。

(志賀健司)

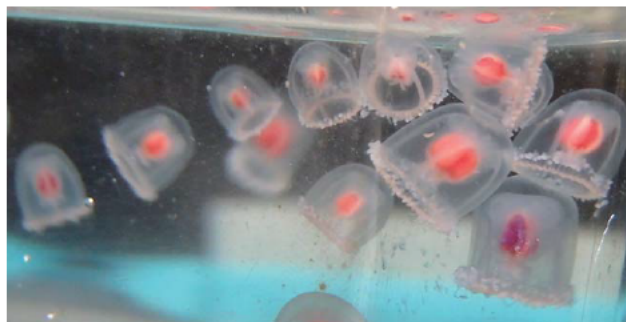
※全てのクラゲは毒を持っています。専門家の指導なしに触らないよう注意してください。



ミズクラゲ(左)とアカクラゲ。
アカクラゲは猛毒を持っていて危険です。



ウラシマクラゲ。直径1〜2cmの小さいクラゲは、春から夏の石狩湾にたくさんやってきます。



ベニクラゲ。直径5mm以下で、内部は鮮やかな紅色をしています。



石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着生物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711

「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。